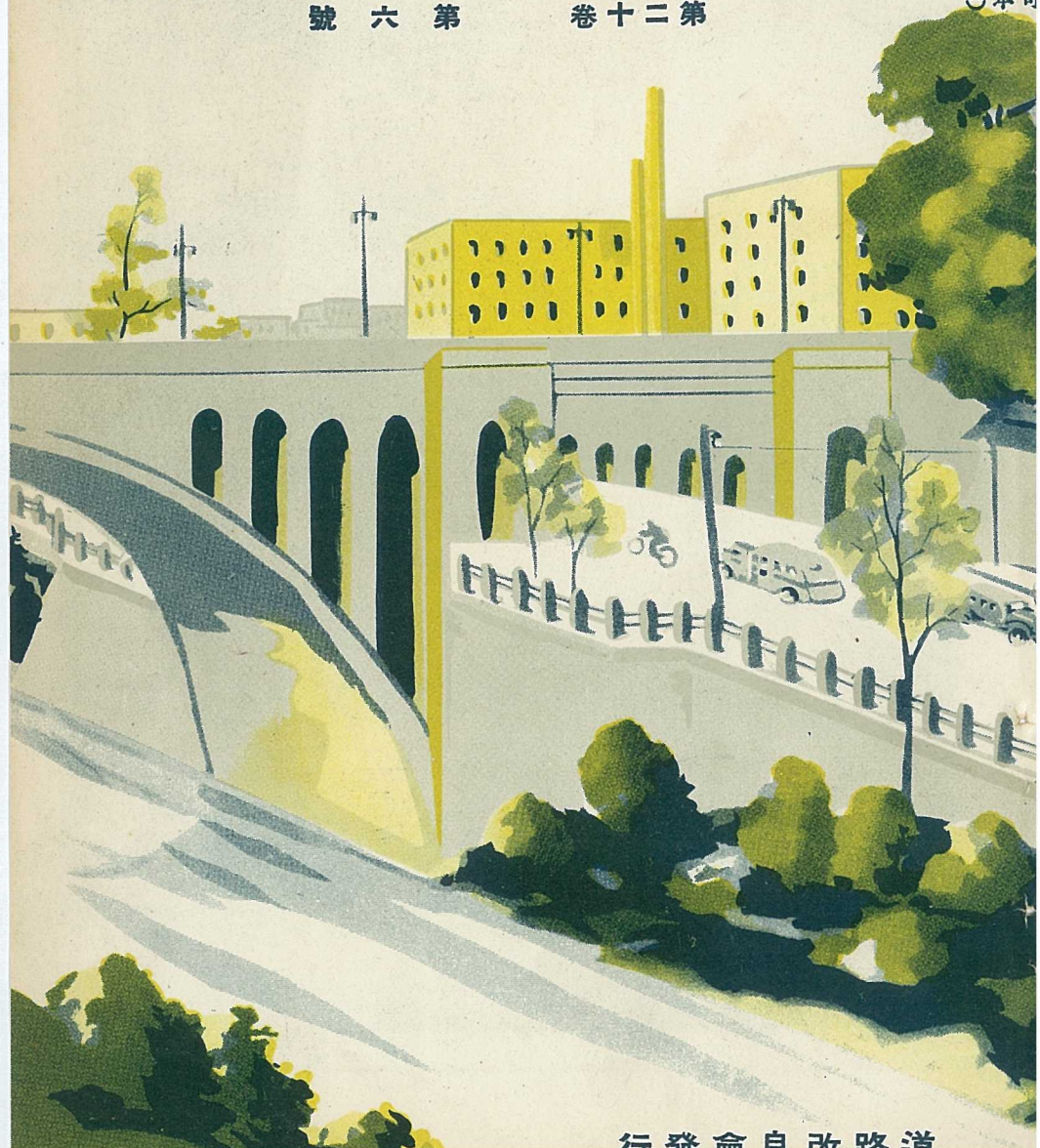


昭和十二年七月二十三日第三種郵便特許認可
昭和十三年五月二十五日印刷 刷納本
昭和十三年六月一日(毎月一回)日發行

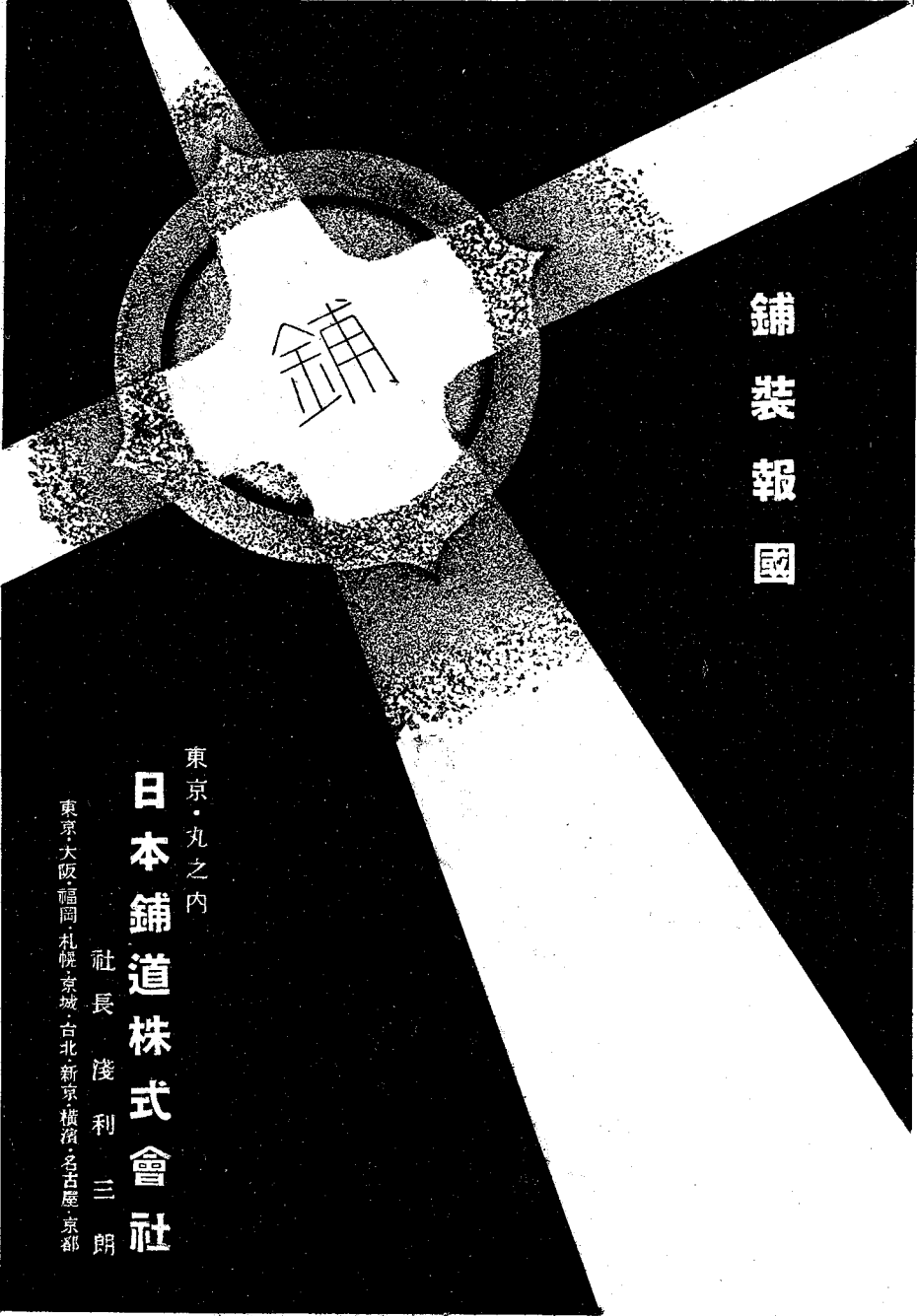
道路の改良

禁 轉 載

第 六 號 第 二 十 二 卷



鋪裝報國



東京・丸之内

日本鋪道株式會社

社長 淺利三朗

東京 大阪 福岡 札幌 京城 台北 新京 橫濱 名古屋 京都



瀝青乳劑

混合用エマルピア
透入用エマルピア

一般道路鋪装工事請負

東京瀝材工業所

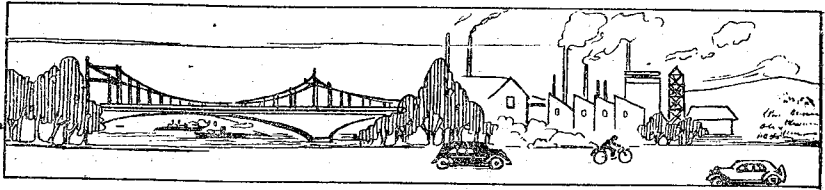
本社 東京市京橋区銀座西三丁目一番地 碌々ビル
電話 京橋(56) 一三二五番

出張所 大阪市東区釣鐘町二丁目二九番地
大倉土木株式會社大阪出張所本部内

電話(東) 三二一三二五番

出張所 仙台市東七番町四五番地
電話 三二二六番

工場 東京市江戸川区長島町五七〇五番
電話 葛西 一三五番



道路の改良 第二十卷第六號 目次

昭和十三年六月一日發行

口繪

鶴川橋 (山梨縣)

卷頭言

論說

都市の交通安全問題

經濟學博士 櫛崎敏雄 (三)

時論

特殊道路の通行料徴收に就いて (二)

内務事務官 細田德壽 (二)

研究

陸運調整の實際 (一二)

内務事務官 武若時一郎 (二三)

技術

橋種別に見たる國府縣道橋 (二〇)

内務技師 青木楠男 (三)

吊橋用親線綱索試験に就て

群馬縣廳土木課 本田次郎 (四)

史料

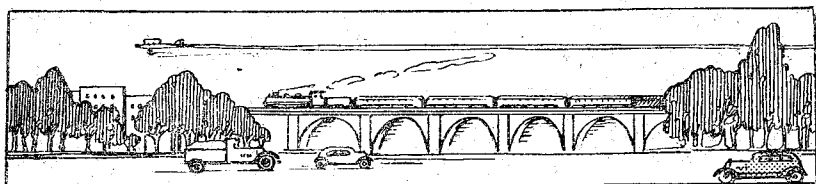
江戸時代旅宿物語 (七)

千葉縣廳 渡部英三郎 (七)

說苑

東京會議便り (二)

内務省 淺香生 (三)



埼玉縣の道路愛護

埼玉縣土木課長 竹内常八(九五)

奈良縣の道路愛護

奈良縣廳土木課 (一〇五)

道路修繕に就いて

戸畑市土木課長 與田喜知藏(二三)

三等車

なをた生(二三)

三浦七郎氏を送る

一記者(二六)

時局日誌(九)

Y H 生(三三)

地方通信

東北・關東・東海・近畿・中國・九州の各地方

(一三)

法令

通牒

府縣道路改良費國庫補助ニ關スル件依命通牒 ◎道路交通情勢調査ニ關スル件依命通牒(三七)

最近内務省に於ける路政關係行政處分例

M O 生(四)

逐條土地收用法資料(三)

高坂孝三(二六)

路政春秋

道路愛護の珠玉は光る……其他

(一七)

雜報

- ◎第八回國際道路會議並同附設展覽會事務囑託◎土木主任官會議の日取決定◎地方長官會議
- ◎北支方面赴任諸氏送別會◎内務省土木試驗所談話會◎近刊圖書雜誌
- 叙任辭令
- 編輯室の内外

(一七)
(一七)
(一七)
(一七)

優良品國産



製品ノ選擇ハ先ツ原料ノ
選擇カラ、瀝青乳劑ノ
良否ハ原料アスファルト
ノ選定カラ

瀝青乳劑

東京丸の内海上ビル
日本石油アスファルト一販賣
株式會社
瀝青部

日本石油アスファルト一販賣

瀝青部株式會社物産野淺

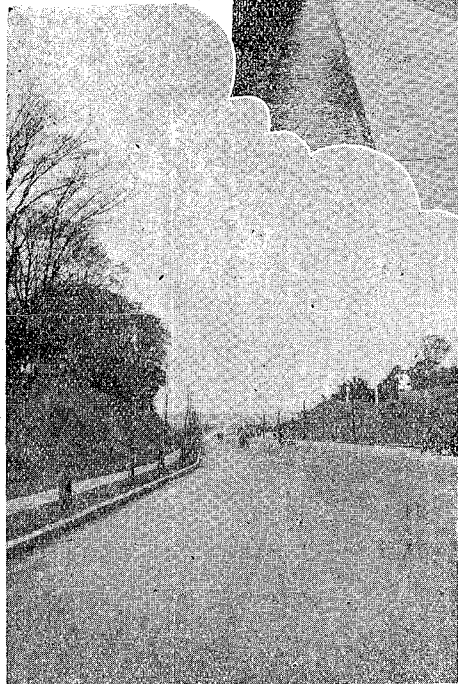
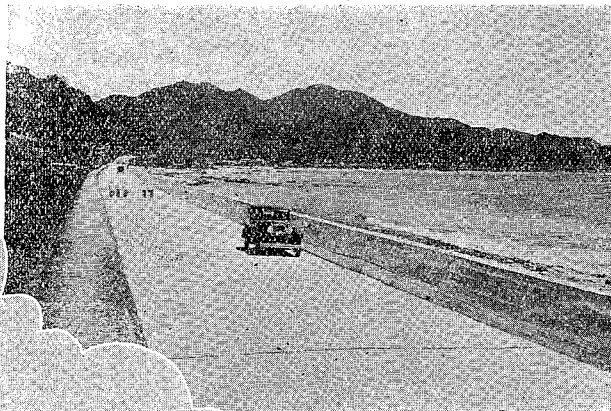
東京丸の内海上ビル(電話丸の内2581-2589)

鶴川橋



位置 山梨縣北都留郡上野原町同慶村
型式 三徑間連續電氣熔接鋼鈹桁（下路式）支間七〇米（中央二七米兩側各二一・五米）
幅員 有効幅員六・五米
使用鋼材 九〇・七遮
橋面鋪裝 碎石コンクリート
橋臺 扶壁付鐵筋コンクリート及鐵筋煉瓦，使用コンクリート量二六三立米
橋脚 鐵筋コンクリート及鐵筋煉瓦，使用コンクリート量三四九立米
總工費 六六・八一三圓
着手 昭和十一年十一月六日
竣功 昭和十二年十二月十日。

静岡縣由比國道
→
ベロセメント使用



↑ 大宮街道志村附近
浅野セメント使用

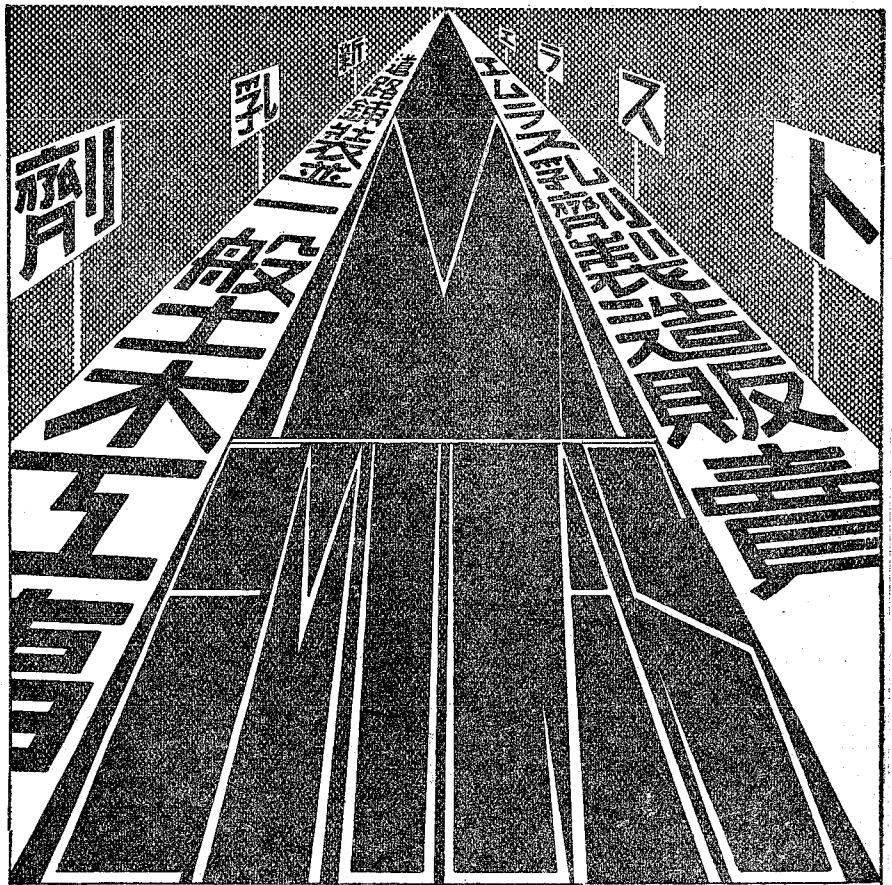
早 強
アサノ
ベロセメント

強度 高ク
硬リ 早ク
使テ 經濟

— 説明書御申込次第送呈 —

浅野セメント株式會社

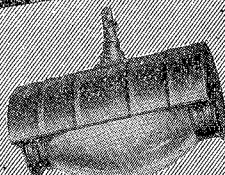
東京市 丸ノ内 海上ビル



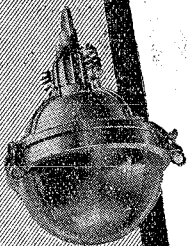
エムラス道路工業株式會社

本 社 東京市向島區吾嬬町西四ノ二四電話墨田二六三七番
 互 場 東京市・大阪市・佐賀市・大分市・弘前市・札幌市・群山市・羅州邑・新京市・川比ノ市
 出張所 大阪市・佐賀市・札幌市・大津市・群山市・羅州邑・新京市・川比ノ市

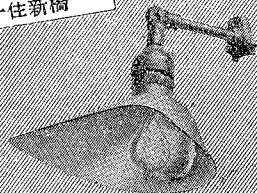
小糸の 道路照明器



H-40型



H-30型



H-500型



弊社製H-30型ハイウエーライトを装備せる東京千住新橋

硝子から燈筐まで自營工場で一貫
製作に成る斯界の最優秀品!!

- 溢光照明器
 - 車輛照明器
 - 自動車照明器
 - 工場照明器
 - 其他各種照明器
- (型録進呈)

陸軍省・海軍省・鐵道省・遞信省指定工場



株式會社 小糸製作所

本 社 東京品川區東品川四丁目二六
電話高輪(44) 209・210・211・218・6778
出張所 大阪市北區堂島中二丁目電話北 166

スルア鐵々肋リント工學座講大

スグ役立つ現場本位の 大講座！翹望の大全集

全八巻の内容

1 材料及施工 内務技師工博 宮本武之輔	2 理論及實驗 内務技師 菊池 明	3 道路鐵道及土木施工法 内務技師 藤井 眞透	4 河海構造物 内務技師 黒田 靜夫 論岸壁、橋、防波堤、給水渠、山口、内務技師 内林 達一、内務技師 野田 政雄、内務技師 金子 征	5 桁橋及拱橋 内務技師 大野 博	6 ラーメン 東大助教 工博 福田 武雄	7 水理構造物 日電設計課 藤井雄之助	8 建築及特殊構造 日大教授 河野 福夫 建築構造、附屬倉庫、煉瓦及電柱、内務技師 山田 正平、工學博士 宮本武之輔
-------------------------	----------------------	----------------------------	---	----------------------	-------------------------	------------------------	--

會員募集・内容見本

材 料 及 施 工

第一回 斯界の絶対的權威者本博士がその全編著をこの一巻に傾倒された驚異の名著である、その講述は丁寧懇切を極め、その詳述さるゝ處悉く今日の實用に即した材料であり悉く實驗済の現代の施工法である。

▼全八巻 菊池上製總クロ一ス毎巻二百五十頁平均、繪圖版圖表掲載、會員に限り毎月一回配本、申込金不要、實物は書店にあり、御入會は書店又は本社へ▲

會費 二円五十錢
送料 五十錢
（外地會費 同十五錢）
（郵料 同十錢）

測 量 學

實地的最高權威者による本邦獨得の實驗土木工學の大全集成！
必須科目二十二、講師は現土木學界最高權威者千四氏、來れ、是れを理論の精髄、體験の結晶！

土木工學大講座

第一回 測量學
北海島常大 助教授 林 猛雄著
配本中

全十九巻 第二回會員募集・内容見本進呈
▼菊池總クロ一ス毎巻四百頁平均繪圖版圖表掲載
▼會員に限り毎月一回配本、入會は書店又は本社へ▲
會費 三元二十錢 送料 會費 三元五十錢

スルア新興機械學

優秀なる技術者の速成的養成
機關ノ平易懇切の指導書！
全十二巻、内容見本進呈、菊池上製平均百五十頁、繪圖版圖表掲載、實物書店に在り、會費 毎月 四十五錢（外地 同七十五錢）

東京・神田・神保町
スルア
振替 東京 八八四一八
電話 九段二一五・七一六



アスファルト

スロウアスファルト
 スミヤルアスファルト
 ストロウアスファルト
 ウォーターアスファルト

販売

施工

小倉石油株式会社
 専属販売店

南部商會

本店 東京 丸の内三歳六号館
 電話 丸の内 654・5014
 出張所 大阪 西区土佐堀大同生命ビル
 電話 土佐堀 5689番
 出張所 石巻 市中区矢場町五の切東陽ビル
 電話 中国 2785番



事工装舗路道トルアブスア

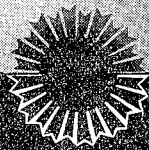
事工装舗トルアフターオウ割乳膏瀝

費販理代トルアフターオウ・トルアブスア倉小

管販造製クソイフルヒサア

社 會 式 株 本 工 市 都

地 番 二 四 丁 一 橋 京 區 橋 京 市 京 東
番 八 六 二 二 (5 6) 橋 京 話 電

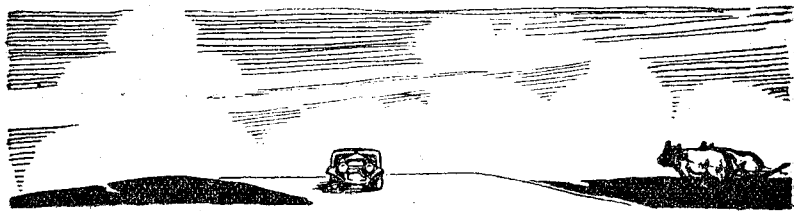


昭和十三年

道路の改良

六月一日

第十二卷
第六號



言 頭 卷

「無用の議論、議論の無用」と題したる蘇峰翁の一文は確かに明論である、曰く外交一元とか、現地解決とか現時に於ける紛々たる議論は少くとも當座限りに於ては無用だ否な有害だ。曰く口で議論せず、事實で議論する方法は獨、伊兩國の兩統裁者が能く之を知つて居る、ジュネーブに於て千百萬言を費すよりも地中海に於ける潜水艇飛行機の一演習が實る効果的である、獨逸の合併亦然りだ。曰く議論は未、實行は本、曰く我等は絶對的に議論を否定するのではない、但だ現時に於て千萬の崇論高論は爆彈一發ほどの價値も無いことを明言する。と一々御尤である。

東京市に關する特別制度の如き明治二十八年以來今日に至る四十有三年間市長は公選せざるべからずとか都長官は官選しなければならぬとか區域は如何にすべきか等々議論は最早幾十度となく繰り返へされた、此年間に於ての四十年間は市長を公選した、而かも殆んど總ての市長は我帝國に於ての一流若くは二流の人物で其智能に於て手腕に於て優秀な人物であつた。然るに、市會議員の多數に制せられて何事をも效果的の仕事を遂行せられない、故奥田市長ですら秘密の保たれずして事業の着手前既に妨害運動の發生するを嘆息せられたことである。市長公選論は現在では最早試験済である、何を苦んで公選論に遠慮を要すべきかである、少くとも此點に於ては議論は無用だ議論するは無意義である。唯實行あるのみ斷行あるのみである。

鐵道至上主義は最早舊時代に屬する、國防上、産業開發上、交通整備上、資源愛護上、道路の改良修築、道路網の根本的革新は議論を費すの餘地がない、躍進途上の我國に於ては必至の案件である。今更左顧右防するを要しない、斷じて行へば鬼神をも制することを信じて可なりである。

官吏制度革新問題も隨分長期間の懸案である、何れの内閣でも斷行しなければならぬと知りながら議論倒れか情實倒れとなつた、今日現内閣ならばとの世人の期待は裏切られることとならぬであらうか。任用令、分限令、高文試験令などの改正は勿論俸給待遇の改善、必資必罰の制度、文官再訓練、人物の配置等の問題は議論は無用だ、實際に施して謬るあらば速に是正して可なり、行はずして論議は有害無用である、時局の動きは好むと好まざるとを問はず、官民一同が我日本の眞の姿を見直すことを要求して居る。汝を知れ」との哲人の言味ふべきであらう。